



東京学芸大学附属大泉小学校

〒178-0063 東京都練馬区東大泉 5-22-1
☎+81-3-5905-0200 ✉kikunoko@u-gakugei.ac.jp

国際教育のトップランナーとして
「グローバル社会に生きる力」を育みます。



世界的に定評ある「国際バカロレア」プログラムと日本の「学習指導要領」を融合した学びと、充実した体験学習でグローバルな視野と広い心を育みます。

■ 国立小学校初の「国際バカロレア認定校」

国際バカロレア「初等教育プログラム(PYP:Primary Years Programme)」認定校として、教科の枠を越えたプログラムを提供。1年次から探究した内容を発表する機会も設け、自主性や探究心を伸ばしていく。また、国際バカロレアと学習指導要領を融合した「教育課程特例校」として一条校としての教科指導も行う。

■ 「国際学級」で国際社会でも活躍できる心と学力を育成

3～6年生を対象に「国際学級」を設置。個々の能力に応じて生活面と学習面の指導を行い、日本の学校教育や伝統・文化への適応・理解を深める。同時に、海外での生活や学校の様子などを一般学級の児童に伝える機会も設けることで、一般学級の児童と互いに良さを認め、伸ばし合う。



■ 体験を重視した行事で「子どもたちの健やかな成長」を促す



4～6年生の移動教室(宿泊学習)では、現地の講師を招いての体験活動を取り入れている。5・6年生は臨海学校を実施して、仲間との絆を深め心身共に逞しく成長する。また、縦割り活動「生活団」では畑で野菜作りの活動をしたり、年2回の遠足に行ったりするなど、学年の枠を超えて支え・学び合うことから「もう一つの学級」と呼ばれている。

歴史ある国際学級で帰国生が楽しく学んでいます。

校長 杉森 伸吉



本校は昭和41年からユネスコの「国際理解と国際協力のための教育」共同学校として研究を進め、44年には帰国児童教育学級を開校しました。現在は、3～6年の各学年に「ゆり組」という国際学級を設置し、海外より来日・帰国した子どもたちが楽しく学んでいます。今後は、国際学級と一般学級の子どもたちが互いに刺激し合い協働する環境をさらに充実させます。世界の異なる文化を理解できるような学習の場を拡大することで、グローバル社会において将来活躍できる子どもたちの育成を目指しています。

入試日程・概要

募集要項購入……2024年9月 ※外部サイトより申し込み
第1次選考(抽選)……………10月中旬
第2次選考(総合調査)……………11月下旬

編入

3～6学年対象の「国際児童学級」の募集は年3回(4・9・1月:1月は3～5学年)実施。ただし、国際学級の定員を越えた場合は募集を行わない場合あり。1、2学年は年に1回(9月)一般学級への編入学調査を実施。



東京農業大学稲花小学校

〒156-0053 東京都世田谷区糎 3-33-1
☎+81-3-5477-4115 ✉toka@nodai.ed.jp

毎日の英語授業と多様な体験学習で、
「生涯につながる力」を伸ばします。



「3つの心(感性・探究心・向上心)」と「2つの力(コミュニケーション力・体力)」の向上を通じて人生を生き抜く「冒険心」を育成します。



■ 教育指標「10の能力」に基づいた学習指導計画

各教科の知識・技能だけでなく、「興味・関心」「想像力」「問題解決能力」をはじめとする「10の能力」が身につくようカリキュラムを構成。
※詳細は当校ウェブサイトをご覧ください。

■ 全国の施設で充実した「体験学習」

「北海道オホーツクキャンパス」や「富士農場」「宮古亜熱帯農場」など日本各地にある東京農業大学の施設を活用し、多様な体験型学習を実施。子どもたちが主体的に関わり「なぜ?」「どうして?」と考え、深く理解することを重視。体験を通じて「10の能力」の育成を促進し、考える力と学びの基礎力を向上させる。

■ 毎日の英語授業で段階的に英語を習得

ネイティブの外国人講師による「英語」の授業を1年生から毎日実施。1クラスを2グループに分け、「英語で感じ、考え、表現する力」を育成し、自分の思考を英語で伝える能力の獲得を目指す。家庭での反復学習時や長期休暇中にも取り組めるようオンライン教材も活用。また、毎日の給食は各国の食文化を学ぶ機会と位置づけ、日本の郷土食や行事食だけでなく、多国籍のメニューも提供。

「生きる力」を育む教育・環境をご用意しています。

校長 夏秋啓子



135年の伝統と歴史がある東京農業大学が扱う「農学」は、「自然・食・地球環境」をテーマとし、人々の生活に身近で生きていくために大切な内容を扱っています。その学びは、小学校教育にも生かせると考え、2019年4月に本校を開校しました。大学のキャンパスや全国にある実験・実習施設には、専門的な設備や人的資源が豊富にそろい、多くの卒業生と連携している企業もあります。それらを活用することで、子どもたちが「生きるために必要な力」を育む教育が実現できると考えています。小学校の名前に含まれた「稲花」は、東京農業大学の「大学の花」でもあります。子どもたちが1本の穂に200粒近い「コメ」を实らせる稲のように、さまざまな力と可能性を育んでいくことができたらという願いが込められています。

入試日程・概要 ※以下は2023年度入試を参考にしており、24年度は未定

入試日程 出願期間……………10月上旬 試験日……………11月上旬
事前面接……………10月中 合格発表……………11月上旬
転入・編入 本校ウェブサイトをご確認ください。

学校説明会日程

本校ウェブサイトをご確認ください。



東京都立立川国際中等教育学校附属小学校

〒190-0012 東京都立川市曙町 3-13-15
☎+81-42-524-3903(代表) ☎+81-42-526-7075(附属小)

東京都立小・中・高の12年間一貫教育校で
「自立」の心を伸ばします。



児童・生徒一人ひとりが持つ資質や能力を最大限伸ばさせると共に豊かな国際感覚を養い、世界で活躍し貢献できる力を育みます。

■ 教育課程特例校として「一歩進んだ英語教育」を提供

中学校・高等学校までの一貫教育の利点を生かし、外国語の活用力を着実に向上。小学校第1学年から英語の授業を週4時間実施。2クラスを習熟度別に4クラスに分ける少人数指導で、外国人講師と共に「聞く・読む・話す(やり取り・発表)・書く」の基礎から学ぶ。海外姉妹校との交流活動も積極的に推進。

■ 文理を融合した「リベラルアーツの学び」

「豊かな心を育む体験活動の充実事業」実施校として自らの感覚や行為により実感・体感する多様な体験機会を提供。児童・生徒の積極性や協調性、コミュニケーション力や他者理解、興味・関心や感性など、豊かな心の育みにつなげていく。リベラルアーツを実施する本校では、身近なものをテーマに科学の不思議な現象を楽しく学べる体験を実施。



■ 卒業20年後を見据えた「キャリア教育」

国際社会の一員として「どのように社会に関わっていくか」「どのように関わっていくべきか」を考える価値観を形成。多様な交流や体験活動を通じて自分のよさや得意なことを見つけ、自分の果たすべき役割を知り、協働する力を伸長。夢や希望を実現するために、自己決定できる力を育成する。



逆向き設計のデザインで「考える人」「伝える人」「行動する人」を育てます。

校長 市村 裕子



私たちの教育の究極の目的は「自立」です。教育の理想を達成するために必要な教育内容や教育方法を、教育理念と生徒の将来像から俯瞰し、逆向き設計でデザインしています。本校では、知育・徳育・体育の調和の取れた育成を目指し、本校で学ぶお子さまが人格を陶冶し、自立した学習者となって、勇気をもって自ら道を切り拓き、より広い世界へ羽ばたいてほしいと考えています。本校で身に付けた資質・能力を思う存分に発揮して、卒業後も学び続け、より良い世界の構築に貢献してほしいと期待しています。私たちも常に学び、全力でお子さまと関わります。

入試日程・概要

「海外帰国・在京外国人児童枠」募集
抽選と適性検査にて決定します。
第1次(抽選)……………10月中旬
第2次(適性検査)……………11月上旬
第3次(抽選)……………11月上旬

学校説明会日程

詳細は直接学校へお問い合わせください。

小学進学準備について、専門家に聞きました。

Kids Duo International 教務責任者/センター南園長
小野木 文香 先生



幼稚園教諭として20年にわたり1000人以上の子どもたちを育て、その後、知能育成と小・中学校受験対策の幼児教室チャイルド・アイズにて勤務、関東関西のエリア長を経て2013年よりバイリンガル幼児園 Kids Duo International(略称KDI)を立ち上げ、17年より園長に就任。

Q 幼児期に英語と日本語に触れるメリットと注意点は

人は赤ちゃんの時は全ての音を聞き取ることができます。幼児期に英語と日本語を「均等に」触れる環境があれば、子ども自身が自分で言語のスイッチを切り替えることができるようになると言われてます。ただし、英語だけの環境にならないように気をつけましょう。日本の小学校に進学する際には、日本語がきちんとできることが求められます。例えば小学校では、先生や友だちとのコミュニケーションや授業において日本語を使いこなさなくてはなりません。日本語を理解でき、平仮名に不安がないように準備していきましょう。

Q 幼児期に大切なことは

海外・日本のいずれでも、社会性や「生きる力」を育むことです。日本人としてのしつけや所作、集団の中での協調性や発言力を養いましょう。ご家庭では「指示を理解して次の行動に切り替える」ことを意識すると良いでしょう。これらの力を見る「行動観察」は、小学校受験でも大切な要素になります。

Q 家庭での過ごし方は

①「答えを教える」のではなく「問いかけ」を心がけましょう。例えば「何色が好き?」で終わらず「なぜ好きなのかな?」「水色のものは他に何がある?」と掘り下げてみましょう。

② 挨拶は大切なことです。お母さんとお父さんが互いに挨拶している様子を子どもたちに見せましょう。

③ 「歯磨きしなさい」「次は…しなさい」と号令をかけるのではなく、「おはよう。元気に起きたね。では次に何をします?」とお子さん自身に考えさせるようにしましょう。

④ お子さんができた「小さなこと」を見逃さず、タイミングよく褒めてあげましょう。例えば「上手に歯ブラシを置けたね」「整理してもらった助かったよ」と伝えましょう。

Q 帰国後の学校選びは

海外の大学へ進学する予定であれば、帰国後にインターナショナルスクールに進ませるのは良いと思います。しかし、日本の高校・大学に進学予定であれば、一般の小学校を考えた方が良いでしょう。私立小学校は英語教育に力を入れていたり、帰国生を積極的に受け入れている学校が多くあります。公立・国立・私立とそれぞれ教育目標が異なることを覚えておきましょう。保護者がお子さんの特性を見てどの学校に合うか見極めましょう。

ウェブサイト限定公開!
「海外でのご家族に向けてのアドバイス」はこちらをご覧ください。

